

1 総括

(1) 教育目標（学校経営案より）

心身ともに健やかで、知・徳・体の調和のとれた児童の育成を図るとともに、心豊かな人間形成と自己実現を目指し、国際社会に貢献する児童の育成を図る。

<めざす児童像>

【力いっぱい】 考える子 … 自ら考え追究する力や自ら学ぶ姿勢を身に付け、自己実現に努める態度を養う。

【笑顔いっぱい】 思いやりのある子 … 礼節を重んじ、豊かな人間関係づくりに努める態度を養う。

【元気いっぱい】 がんばる子 … 命を尊び、心や体を鍛え、たくましく生きぬく力を養う。

(2) 本年度の重点努力目標

○「すべては子どもたちのために」を念頭・合い言葉に、信頼される学校づくりに努める。

ア 目指す教師像

【授業】 ・ 児童が主体的で対話的な学びを実現できる実践・改善に努める。

【環境】 ・ 児童が安心できる居場所づくりに心がける。

【コミュニケーション力】 ・ 挨拶の率先垂範と指導を行う。
・ 共通理解、協働意識をもち課題を解決する。

イ よりよい集団づくり

児童会活動・異学年交流を通し、よりよい集団の在り方を一人一人が意識し、行動する力を養う。

ウ 「自分の命は自分で守る」行動

安全に対する意識や危機に対する認識を深め、自ら安全に行動できる力を育てる。特に、コロナ感染対策として、手洗い・ソーシャルディスタンス・換気など自ら意識し、実践する子どもを育てる。

エ 保護者・地域応援団の活用

- ・ 「できる人が・できるときに・できることをする」を合い言葉にし、PTAボランティアを組織し、保護者の協力を得ながら学校運営を行う。
- ・ 学校運営協議会を充実させ、地域の人材や教育力を学校教育に生かしながら互いの情報交換を活発にする。
- ・ 読み聞かせボランティアや図書支援員や市図書館との連携を図り、児童への読み聞かせ活動や図書室の整備を行う。

オ 校内現職教育の推進

- ・ 特別な支援を要する児童への適切な指導を図るため、校内研修を充実させ、特別支援学級と交流学級の担当者同士の連携を強化する。
- ・ ICT教育を推進し、一人1台タブレット端末の効果的な活用の研究を算数を中心に行う。

カ 多忙化解消にかかる取組

- ・ 教員の意識改革を推進し、タイムマネジメントを自己管理できる教員を育成する。
- ・ 夕方の打ち合わせを活用し、会議の精選や会議時間の短縮を行う。
- ・ 定時退校日を給料日に設定し、計画的な業務を心がける。

2 自己評価の実施体制

(1) 調査期間 令和4年12月 9日（金）～12月19日（月）

(2) 調査項目 別紙アンケート参照

(3) 調査対象 有効回答者数／対象者数

今年度より、グーグルフォームズを用いたタブレット、スマートフォン等で行うアンケートを実施

- ・ 3～6年児童 262名／262名 ・教職員 31名／31名
- ・保護者 262名／275名

3 調査結果

別紙アンケート結果参照

4 考 察

(1) 児童の評価

- ・ 全体として、肯定的な回答が多く、学校生活に満足している児童が多いと考える。
- ・ 「私には、友達がいる」の項目で評価が高い。学校に居場所があり、良好な友人関係を築いていることがうかがえる。
- ・ 「私は、交通安全に心がけて、登下校している。」の項目で評価が高い。通学班で協力し合い、命を守ろうと心がけていることが分かる。

- ・ 「私は、いつも明るく、元気のよいあいさつをしている。」の項目で評価が低い。挨拶コミュニケーションの潤滑油であることを実感できていない児童がいると考えられる。
- ・ 「私は、自分から進んで、授業や勉強に取り組んでいる。」の項目で評価が低い。主体的な学びを実現させる授業展開がさらに必要であることが分かる。

(2) 教職員の評価

- ・ 24項目中、20項目において80%以上の肯定的な回答をしており、教育活動が子どもたちの成長につながっていると考えている。
- ・ 「電話での問い合わせや来校時に親切に対応している。」の肯定的な回答は100%であり、保護者、地域の方、外部講師など、多くの大人の力で子どもたちを育てていこうとする姿勢が見られる。
- ・ 「本年度の指導方針により、教育成果が上がっている。」「子どもたちは、意欲的に学習に取り組んでいる。」「子どもたちが身に付けているICT機器の活用能力は、日々の学習に役立っている。」の項目については、評価が向上している。毎日の授業や行事等にICT機器の活用を含めた工夫を凝らし、よい表情で活動する児童が多く見られるようになったことがうかがえる。
- ・ 「家庭で、学校での出来事等を話題にして、親子でよく話し合いをしている。」「子どもたちは、家庭学習に計画的に取り組んでいる。」の2つの項目で評価が低い。家庭での子どもたちの活動の支援方法について悩んでいる様子が見られる。

(3) 保護者の評価

- ・ 「先生は、電話での問い合わせや学校を訪問した時に親切に対応している。」「学校での学習や生活を通して、お子さんが成長している。」の項目で、評価が高い。多くの保護者が学校の様子を知ることができ、安心して児童を任せられていると考えられる。
- ・ 「先生は、子どもをよく理解し、真剣に対応している。」「先生は、いつも広い心で子どもに接している」の項目への評価が高い。教師が、児童や保護者のために誠実に対応していることが伝わっていると考えられる。
- ・ 「学校は、コミュニティ・スクール(学校運営協議会)として、保護者、地域と連携・協働して子どもを育てている。」への評価が低い。PTAボランティア活動と学校運営協議会の活動のさらなる充実が望まれていることが分かる。

5 成果と課題

《成果》

- (1) 本年度はアンケートを教師と児童はタブレット端末、保護者はインターネットで回答できるようにした。昨年度に比べ、保護者の回答率が上がった(89%→95%)。今後も同様の方法をとっていきたいと考える。
- (2) 「先生は、基礎・基本を押さえた分かりやすい授業を工夫している。」「先生は、電話での問い合わせや学校を訪問した時に親切に対応している。」「先生は、いつも広い心で子どもに接している。」「学校は、学校の様子を各種たよりやホームページでよく伝えている。」の項目についての、児童・保護者・教師の評価が高い。落ち着いた学習環境が構築されており、児童・保護者への教師の真摯な対応が伝わっていると考えられる。
- (3) 本年度の課題であった、「お子さんは、進んで読書活動に取り組んでいる。」の項目は、児童は10%、教師は20%評価が上がった。読み聞かせボランティアの活動や美和図書館との連携の成果が表れた結果であると考える。

《課題》

- (1) 「お子さんは、いつも明るく、元気のよいあいさつができています。」についての肯定的な評価の割合は、児童・保護者ともに伸び悩んでいる。しかし、教師の評価は高い。教室で行っていることをより多くの場面で発揮できる児童を増やしていきたい。
- (2) 「学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的にきめ細かく行っている。」「学校は、保護者の悩みや相談に親身になって対応している。」における保護者の評価が下がった。限られた時間の中でも、工夫をして保護者との連絡をとり、相談活動を充実させる必要がある。
- (3) 「学校は、コミュニティ・スクール(学校運営協議会)として、保護者、地域と連携・協働して子どもを育てている。」への評価が低かったため、学校運営協議会の在り方とPTAボランティア活動との連携を見直していく必要がある。

6 改善策

- (1) 児童会活動の「あいさつ運動」や「あいさつ名人」などの取組を行った。教師自らが模範となること、学校行事や道徳の授業などを通して、相手意識をもって生活することの大切さに気付かせ、挨拶に対する意識を高めていく。
- (2) 行事、懇談などの特別な機会だけではなく、普段の生活で気付いた児童の活躍について、連絡帳・電話・家庭訪問などで保護者に発信していく。また、保護者の抱える子育ての悩みについて、スクールカウンセラーの活用の活発化や外部機関との連携をさらに進めていきたい。
- (3) 学校運営協議会とPTAボランティア活動とを仲介する役割を学校が務め、より多くの大人が学校教育活動で子どもたちとふれ合う場を設定する。